



北海道再生!!
—人に温かい道政—

道政ニュース

高橋とおる

発行 2019年春~秋号 No.65

高橋とおる事務所

〈自宅〉函館市美原4丁目2番14号
TEL・FAX 47-0867



令和元年第2回定例道議会（7 / 2本会議場）

北海道議会第三四代副議長に就任

四月に実施された北海道議会議員選挙後、初めての道議会となる令和元年第一回臨時会が五月十六日から始まり、議員の皆様からご推挙をいただき、北海道議会第三四代副議長に就任することになりました。就任後には、皆様から温かいお祝いの言葉などを賜り、心から御礼申し上げます。

調べてみますと明治三四年に初めて開催された北海道会（北海道議会ではなく）以来、函館市から選出された議長及び副議長は、私で六人目、昭和二二年に地方自治法が施行されてからは、三人目ということだそうです。

そのように非常に重い任務であることを心に刻み、北海道議会が道民の皆様にとってより近い存在となるように、また、政府に対しても一番大きな広域自治体議会として影響力を発揮し、そして他の都府県議会の牽引力として力を発揮できるように、議長共々努力してまいります。

副議長の任期は二年間となっておりますが、この二年間には、道議会議員としてだけでなく、まったく違った経験をさせていただくことになるでしょう。北海道とご縁のある各国の総領事館とのお付き合いや、海外との交流なども増えてまいりますし、北海道関連の各種行事での挨拶など、地元での時間も窮屈になってくると想定され、議会での質問も制限されますが、様々な手法を駆使しながらも、地元のための仕事に意を尽くしてまいります。

ご心配をかけております体調にも十分留意し、重責を全うしたいと思っておりますので、今後共宜しくお願いしご挨拶いたします。

北海道議会副議長 高橋 亨

道議会へ五期目の当選

四月七日に投開票された北海道議会議員選挙におきまして、五期目の当選を果たすことが出来ました。心から御礼申し上げます。

今回は、初めて二万票の万台を超え、二〇、〇六四票というご支持を頂きましたこと、心から感謝申し上げます。

人口減少時代の北海道、その中で道南・函館市の状況をどのように打開していくかが大きな争



5期目の当選を果たし、道政課題に望む決意を新たにす。

点となりましたが、私は、地元函館の将来を見つめて、観光都市函館をどのように維持発展させていくのかについて訴えさせていただきます。

今、函館市の駅前では大型ホテル六棟が同時並行的に工事を行い、随時開業する予定となっております。五稜郭地区などでもホテルが建設されている他、市内の既存ホテルでのリニューアルも進んでいます。

近年の外国人観光客の増加などの影響もあり、函館市の観光客数は、右肩上がりの傾向を示しており、この傾向はこれからも続くものだと思います。そのことも好材料となったのか、民間のホテルラッシュとなつています。



昨年10月に暫定供用開始された若松埠頭

ホテルは、部屋の調度品などの単価が高額となり一棟あたりの建設費が普通のビルとは比べ物にならないと聞いています。

一棟あたり単純に五〇億円と換算しても、六棟で三〇〇億円、新外環状道路が来年度末から供用開始となりますが、この建設費が約六四〇億円、函館港に建設中の大型客船のバースが約三四億円、ターミナルビルが約一四億円となり、函館市への官民の投資は約一、

〇〇億円を超える額となります。これは道内において、札幌、ニセコ以外では函館だけとなります。

この投資をどう活かすかは政治と行政の仕事ですが、ここに大きな問題が横たわっています。北海道新幹線が二〇三〇年に札幌延伸となった場合、並行在来線である小樽～函館間、とりわけ長万部～函館間がJR北海道から経営分離となってしまうという問題です。

函館市にとっては、現函館駅～新函館北斗駅間が並行在来線となり、このままでは函館ライナーが走らなくなることが危惧されます。そんなことになっては、今、函館駅を中心に官民の投資が行われていることが水泡に帰することになりかねません。何としても、現駅までの鉄道を残すことが

必要になってきます。二〇三〇年まで一〇年以上もあると安心せずに今からオール函館の体制を作り上げ、この問題を協議していかなければなりません。

第三セクターとなれば、当然、北海道や沿線自治体の財政負担が惹起されてきますが、函館から新函館北斗間だけではなく、長万部から七飯までのローカル線も並行在来線として考えなければなりませんし、七飯は大沼公園という名勝地への影響も考えなければなりません。

道議会に送り出しているいただいた五期目は、とりわけ函館市の将来に関わるこの問題を重点に取り組んでまいります。今回の令和元年第二回道議会定例会では、本会議におきまして、鈴木新知事が二〇一二年に設立

され、長年開店休業状態であった『北海道新幹線並行在来線対策協議会』のブロック会議を関係する後志と渡島管内でそれぞれ開催し、具体的な議論を進めるという考えを示しましたから、この問題は北海道の問題であることとをしっかりと訴え、国の財政支援も視野に入れながら、函館

市はもちろん全ての力を結集して函館の将来に上げる結論を導き出したと思います。



ホテル建設が進む函館駅前と北海道新幹線札幌延伸時にJRから経営分離が危惧されるはこだてライナー

鈴木新知事の議会対応

知事選が終わり、鈴木直道新知事が就任しました。印象をお伝えします。

多くの道民の方々は、鈴木新知事が新しい北海道のリーダーとして、どのような舵取りをしているのかに期待をしていると思いますが、私から見

た副知事を全て解任し、新しい体制にすることを決めていたようです。

意外にも中央省庁から新たな副知事を就任させず、既に総務省から出向していた中野総務部長と浦本企業管理者を内部昇格させ、退職し道銀のデジタルビジネス戦略部長に再就職していた土屋前農政部長を呼び戻しました。多くの関係者は、中央省庁からの副知事複数体制で国の関与を強めるのではと想定していましたが、あに凶らんやの人事でした。

しかし、その後の各部の人事では、総合政策部次長に財務省から、経済部次長には国交省から、保健福祉部次長には厚労省からの中央官僚を起用し、したたかに国とのパイプを敷いています。

さて、鈴木知事にとつて初めての道議会本会議

ですが、今回から議員と道との過剰なすり合わせを行わないという取り決めの下、注目された本会議でしたが、本質問では、用意された答弁書を読み上げ、再質問の無い与党には、落ち着いて答弁していましたが、野党が再質問をすると、知事席ではいつもと同じ風景が繰り返されていました。

それは、高橋前知事と同様に、自ら答弁をしようという姿勢ではなく、各部が用意していた想定問答に部長や副知事が手を加えた答弁用紙が手元

に来るまで黙って前を向いて待っているという、まさしく前知事と重なる姿です。

そのことについてヤジが飛んでも、黙って前を見て意に介しません。

しかし、議長席から知事席の彼の姿を見ていると答弁用紙が手元に来るまでの間、前知事が見せた「我、関せず」というふてぶてしい態度ではなく、自らの言葉で答えられない忸怩たる思いを堪えているというような顔をしていました。

大いなる意気込みで知事に駆け上がりましたが、本会議では、道の官僚の庇護がなければ乗り切れないということを身をもって感じたのではないかと思います。

早く、官僚を頼ることなく、自らの言葉で議員とのやり取りをしてほしいものだと感じました。



道議会で初めて答弁する鈴木知事

写真で見る主な活動

※詳しい活動報告はホームページに掲載しています。



副議長に推挙され、就任の抱負を語る
(5/20)



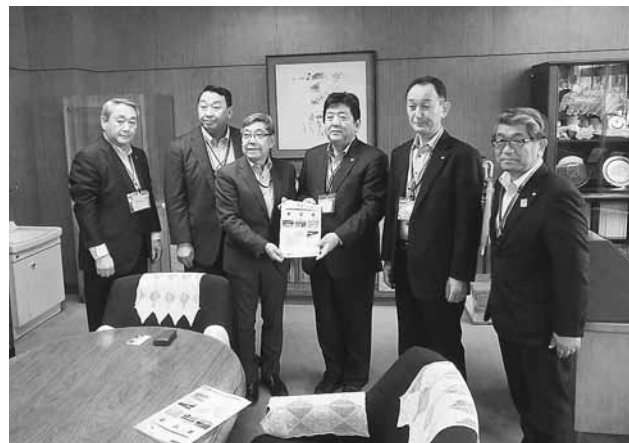
副議長室にて (6/5)



ロシア領事館でロシアの日レセプション
での挨拶 (6/11)



稜北高校の校舎を活用し開校となった函館高等
支援学校開校式での挨拶 (6/22)



西紋別地区総合開発期成会から要望を受ける (6/27)

令和元年第2回北海道議会定例会で採択された意見書・決議

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ◎地方財政の充実・強化を求める意見書 ◎令和元年度北海道最低賃金改正等に関する意見書 ○新たな過疎対策法の制定に関する意見書 ○国民健康保険の子どもに係る均等割保険料(税)軽減措置の導入を求める意見書 ○林業・木材産業の成長産業化に向けた施策の充実・強化を求める意見書 | <ul style="list-style-type: none"> ○道路の整備に関する意見書 ○義務教育の機会均等の確保と教育予算の確保・拡充を求める意見書 ○私学助成制度に係る財源措置の充実強化に関する意見書 |
|--|--|
- (◎は政審発議、○は委員会発議)

高橋とおる 2019道政を語る会を開催(副議長就任記念祝賀会)

毎年恒例の高橋とおる2019道政を語る会を次のとおり開催します。
また、語る会終了後、この度、副議長就任のお祝も兼ねた交流会を開催しますので、ご参加をお待ちしています。

日 時 / **2019年8月30日(金) 18:30 ~**
場 所 / **函館国際ホテル** 函館市大手町5-10 (0138-23-5151)
会 費 / **3,000円**

主催 / 高橋とおる2019道政を語る会・副議長就任祝賀会実行委員会 この催しは、政治資金規正法第8条の2に規定する政治資金パーティーです。